

ドル円相場、再始動の秋

ドル円相場は7月末にやや円安方向に振れたが、8月には再び102円台での膠着した推移が継続している。目先は材料難もあって、相場観が大きく変わるとは考えにくい。夏の間は動意薄だろう。

しかし、秋には、円安ドル高が再始動すると見ている。先行きの円安材料は多い。まず、米国の景気回復や量的緩和終了に伴う米金利上昇を受けたドル高が期待できる。他にも早ければ9月と目されるGPIFのポートフォリオ変更発表や年末にかけてのNISAの枠消化に伴う国内投資家による外貨建資産等への投資活発化も円安材料にカウントできる。さらに、秋の物価上昇率が再加速しなければ（筆者はしないと予想）、日銀の追加緩和観測に伴う円安圧力が発生する可能性もある。米金利上昇に伴う米株の調整などリスクオフの要素もあるため、不安定感は否めないものの、トレンドとしては円安ドル高と見ている。

一方、ユーロ円相場は横ばい圏の動きを予想。最近もユーロ経済の低迷を示す指標が相次いでいるうえ、ロシアとの相互制裁による悪影響も懸念され、ユーロへの悲観が台頭しやすい地合いが続くだろう。円とユーロは弱さ比べとなり、方向感の定まらない展開が続きそうだ。

長期金利は最近さらに低下し、0.5%前後の推移になっている。ただし、採算的にこの低水準に追随できる投資家は少ないため、低下余地は小さい。むしろ、3か月後は米金利上昇などを材料として、やや持ち直ししていると予想する。

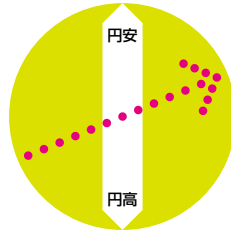


シニアエコノミスト **上野 剛志**
 うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp
 1998年日本生命保険相互会社入社、
 2001年同融資部門財務審査部配属、
 2007年日本経済研究センターへ派遣、
 2008年米シンクタンク
 The Conference Boardへ派遣、
 2009年ニッセイ基礎研究所(現職)。

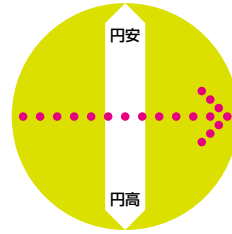


Market Karte

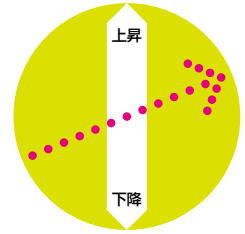
September 2014



ドル円・3ヶ月後の見通し

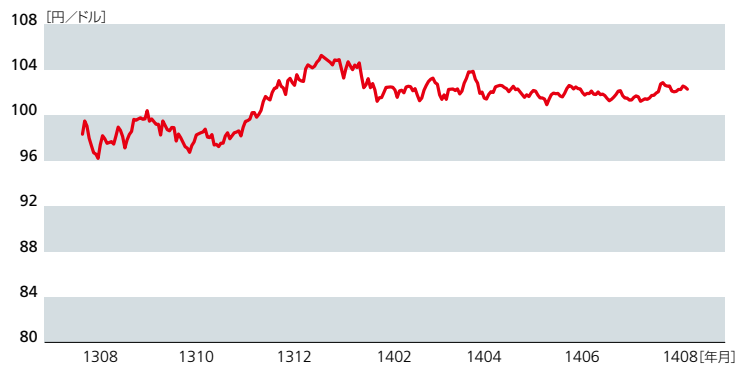


ユーロ円・3ヶ月後の見通し

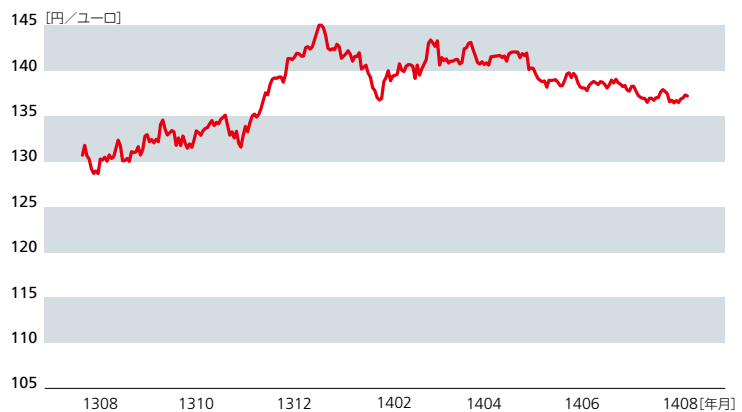


長期金利・3ヶ月後の見通し

ドル・円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ・円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

